

2015 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日
2015 年 10 月 28 日（水）～30 日（金）
第 3 日（10 月 30 日）
午前：口頭，ポスター
午後：口頭
2. 会 場
京都テルサ
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 70 番地
(新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内)
<http://www.kyoto-terrsa.or.jp/>
3. 研究発表
口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程
大会は以下の日程で行われる予定です。
第 1 日（10 月 28 日）
午前：口頭
午後：口頭，ポスター
第 2 日（10 月 29 日）
午前：口頭
午後：授賞式，受賞記念講演，シンポジウム，懇親会
5. シンポジウム
大会第 2 日（10 月 29 日）の午後に開催予定です。テーマは「スーパーコンピューティングと気象学」です。
6. 懇親会
大会第 2 日（10 月 29 日）の夕刻に，大会会場（京都テルサ大会議室）にて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2015 年 6 月 9 日（火）開設予定】
本大会では，大会ウェブサイトを，2015 年 6 月 9 日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては，こちらをご参照下さい。URL 等につきましては，気象学会ホームページ（<http://www.metsoc.jp/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法
「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。
原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や，クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など，止むを得ない事情がある場合は，郵送による申込を受け付けます。
なお，大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。
- 1.1 オンラインによる申込
 - ・締切：2015 年 7 月 7 日（火）15 時（日本時間）
 - ・大会ウェブサイト参照し，指示に従って申し込みをして下さい。
 - ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが，改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし，大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

す。

- ・ 個人情報と ID・パスワードの登録および大会予稿原稿の投稿は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つの ID で、講演者の異なる 2 件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・ 講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行ってください。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・ オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・ 大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式は PDF (容量の上限は 1 MB) に限ります。
- ・ 大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・ 講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・ 講演申込み締め切り(7月7日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・ 締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・ 締切：2015年6月30日(火)(消印有効)
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・ 以下の4点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールまたは郵送にてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿(電子メールの場合は PDF 形式)

- ② 講演者氏名(漢字、ふりがな、ローマ字)、所属、所属略称、会員番号、発表形式、連絡先(住所・電話番号・E-mail アドレス)、講演題目、主・副キーワード、参加種別(講演者 A/講演者 B)、懇親会(参加/不参加)、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
- ③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー(次項参照)
- ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書(フォーマットは以下に掲載)

http://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf
送付先(電子メールの場合):

kouenkikaku2015a@mri-jma.go.jp

(件名に「講演申込 2015a」と明記して下さい。)

送付先(郵送の場合):

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

- ・ 講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
 - 口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
 - 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ① 「2015年度秋季大会参加申込」と明記
 - ② 会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
 - ③ 大会参加種別(講演者 A または講演者 B)
 - ④ 大会参加費金額
 - ⑤ 懇親会費金額
 - ⑥ 合計金額
 - 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - 払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・ 講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・ 講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2015a@mri-jma.go.jp)までご相談下さい。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2015年8月25日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2015年8月18日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2015年度秋季大会参加申込」と明記
- ②大会参加種別（聴講者）
- ③大会参加費金額
- ④懇親会費金額
- ⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）・電話番号をきれいに記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費，懇親会費

3.1 大会参加費

- ・大会参加費（食事代等は含まれません，消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	－
講演者 B	5,000 円	－
聴講者	3,000 円	4,000 円

- ・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし，学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- ・講演件数が2件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	4,500 円

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。期日までに懇親会費の払い込みが済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- ・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- ・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。
- ・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF (容量の上限は 1 MB) とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

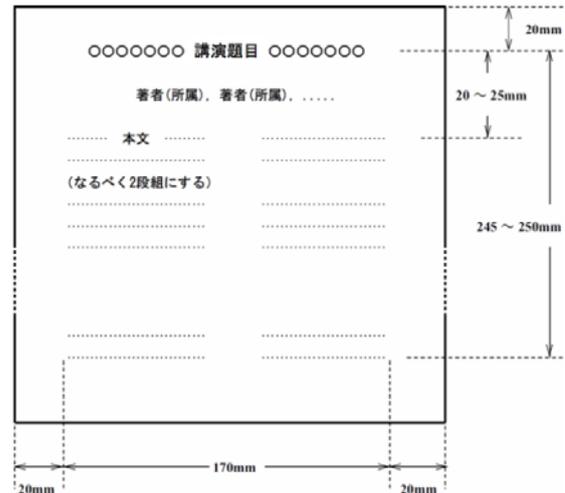
4. 配置 (付図参照)

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に *をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20~25mm として下さい。本文は原則として 2 段組

(左半分→右半分) にして下さい。

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は (公社) 日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表 (スペシャル・セッションを含む) とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法 (口頭/ポスター) につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等

により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. スペシャル・セッションの概要

・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。

- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は7月7日（火）、郵送申込は6月30日（火））です。
- ・セッションに申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、当該セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。
- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは、縦140 cm×横90 cmとします。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（スペシャル・セッションを含む）につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。

- ・パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
- ・セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
- ・突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。
- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では下記の通り、5件の専門分科会が開かれます。

1. 「温室効果気体研究の観測・測定技術の進展による新たな展開」

趣旨：温室効果気体の地球規模循環の解明は、将来

の気候変動とそのフィードバック機構を精緻に予測するために不可欠である。大気中の二酸化炭素濃度の観測から始まった温室効果気体循環の研究は、その後、メタンなど多種類の気体に及び、面的には海洋や陸域生態系の観測へ、時間的にはアイスコア解析等の古環境にまで広がり、さらに同位体比や酸素窒素比等の関連物質観測など、幅広い分野で進められている。近年はレーザー分光法の活用やリモートセンシング法による計測の高度化、航空機、船舶、気球等の多様なプラットフォーム

ーム展開などによって観測の空白域が埋められつつある。このことから、観測データの統合化とその品質評価も重要な課題となり、標準スケールの技術開発が進んでいる。一方で、温室効果気体をトレーサーとする大気の輸送研究にも注目が集まっている。

本セッションはこれら最先端の観測手法や測定技術についての情報交換を行い、今後の研究の展望を議論し、分野間の連携を促進することを目的とする。従って、既存研究のレビューではなく、近年活用が進んだ観測技術や今後発展の期待される話題を歓迎する。さらに、モデルや関連研究からの要望や提言もいただきたい。

世話人：町田敏暢（国立環境研究所）、村山昌平（産業技術総合研究所）、森本真司（東北大学）、松枝秀和（気象研究所）、青木周司（東北大学）、藤谷徳之助（国立環境研究所）

2. 「里村雄彦先生追悼セッション：非静力学数値モデルと熱帯モンスーン降水研究の発展のために」

趣旨：京都大学教授でいらした里村雄彦先生が2014年3月3日に60歳で永眠されました。里村先生は、非静力学数値モデルの開発と数値実験によって急峻地形効果を研究されるとともに、非静力学数値モデル研究連絡会の発起人の一人としてその運営に尽力されました。また、アジアモンスーンエネルギー・水循環観測研究計画（GAME）－熱帯計画、ならびにモンスーンアジア水文気候研究計画（MAHASRI）に主要メンバーの一人として参加され、とくに東南アジア域の降水システムに関する研究をされました。教育面では、学生自身が問題を発見し、解決方法を勉強しながら模索する習慣を身につけることを目指され、日本気象学会では、電子レター誌「SOLA」の立ち上げと編集委員長等で大きく貢献されました。この分科会では、先生が関わった非静力学数値モデルの開発と利用、ならびに熱帯モンスーン降水研究を中心とした発表を行い、先生の業績を偲びます。

世話人：重尚一（京都大学大学院理学研究科）、余田成男（京都大学大学院理学研究科）、向川均（京都大学防災研究所）、竹見哲也（京都大学防災研究所）、岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、沖大幹（東

京大学生産研究所）、松本淳（首都大学東京）

3. 「防災気象情報 ～情報をつくる・伝える・使う工夫～」

趣旨：気象情報は、事象を定性的・定量的表現で伝える形態として運用されるのが通常である。

また、一定のリードタイムを確保し、事象の危険性を具体的にイメージさせ、防災・減災を目的とする意思決定を促すのが気象庁からの警報・注意報、そして自治体からの避難勧告・避難指示等の役割であろう。

だが実際には防災気象情報を受け取っても避難行動に直結しない事例は多い。実際の避難行動は自助による行動が最も多いが、身近な人や施設管理者からの呼びかけ、市町村の避難勧告等が避難行動のトリガーとなる。

このように、防災気象情報に人間の心理的な行動特性は大きく関係しているため、これらの点も踏まえて、情報の作成、伝達、活用の工夫や、技術シーズの創出などについて、広くアイディアを募って議論したい。

世話人：岩田修（日本気象予報士会）、難波良彰（日本気象予報士会）、川邊昭治（日本気象予報士会）、土井修二（日本気象予報士会）、鈴木浩文（日本気象予報士会）、弘中秀治（日本気象予報士会）、荒川知子（日本気象予報士会）、岡留健二（日本気象予報士会）

4. 「「あかつき」金星大気探査カウントダウン」

趣旨：我が国の惑星大気探査の第一歩となる金星気象衛星あかつきは、2010年5月に打ち上げられ同年12月に金星周回軌道に入ることに失敗し、その後、太陽を周回していたが、本年12月7日に改めて金星周回軌道に入る運びとなった。予定より5年遅れ、また当初の計画と異なる軌道からの観測となるが、年明けから本格的な金星大気探査が開始される予定である。

当セッションでは、招待講演を中心にして、「あかつき」の金星大気探査の新たな計画について紹介するとともに、この5年間に Venus Express 探査機などによる観測や理論研究により得られた成果、およびその経験を踏まえた「あかつき」のデータ処理・科学研究の計画について議論し、会員諸氏

に関連研究への参加を呼びかける。あわせて、金星その他の惑星大気に関する一般講演も募集する。
世話人：高木征弘（京都産業大学理学部）、今村剛（JAXA 宇宙科学研究所）、松田佳久（東京学芸大学自然科学系）

5. 「気象予測・観測技術の再生可能エネルギー分野への応用」

趣旨：近年、固定価格買取制度（FIT）の導入以降、太陽光発電や風力発電システムなどの再生可能エネルギーの導入量には目覚ましいものがあります。一方、これらの発電出力は天候等により左右されるため、時間的、空間的にも大きく変動します。このため、再生可能エネルギーを含めた電力の安定供給、電力の需給バランスの安定化には、太陽光や風力の予測、把握技術は不可欠な技術要素となりつつあります。また、気象の分野で技術開発された様々な予測・観測技術を用いることは、再生可能電源の系統への接続、電力系統における火力発電所等の運転計画の効率化（燃料費などのコスト低減）につながり、電力系統の運用コスト削減に貢献し、系統安定性へ大きく寄与できる可能性を秘めています。

このセッションでは、気象予測や気象観測技術が電力システム分野においてどのように利用、応用されているかの現状や技術開発の状況を把握するとともに、今後、電力システムに有効に活用されていくための議論の場にしたいと思います。研究機関から民間の気象会社、電力システム分野など様々な角度からのご発表、意見交換を期待致します。

世話人：大竹秀明（産業技術総合研究所）、宇野史睦（産業技術総合研究所）、嶋田進（産業技術総合研究所）、宇田川佑介（東京大学）、中島孝（東海大

学）、滝谷克幸（一般財団法人 日本気象協会）、早崎宣之（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社）

6. 「熱帯・中高緯度、成層圏・対流圏結合変動過程と異常気象の予測可能性」

趣旨：近年、変分法やアンサンブル手法などデータ同化技術の高度化や、数値予報モデルの高精度・高解像度化が進み、数値予報の精度が向上している。同時に、西岸境界流域とその続流域における大気海洋相互作用や成層圏・対流圏鉛直結合に関する研究が進展し、異常気象・異常天候のメカニズムに関する新たな知見が得られている。

その結果、例えば、年々変動に伴う熱帯の海面水温や北極海の海氷分布に対する大気の応答としての特徴的な天候や、北半球環状モードの成層圏から対流圏への下方伝播などから、従来考えられてきた予測可能性限界を超える糸口が見いだされつつある。また、熱帯季節内振動や極域の寒気流出を契機とした熱帯低気圧や温帯低気圧の急発達のような顕著現象についても、予測精度の向上や予測可能期間の延長に期待が高まっている。

このセッションでは、異常気象に対する熱帯や中高緯度からの影響や、中緯度の大気海洋相互作用、成層圏・対流圏結合現象のメカニズムに関する最新の研究成果を報告し、社会的関心の高い中期予報や季節予報への応用や長期変動、将来変化について議論する。

世話人：木本昌秀（東大大気海洋研）、中村尚（東大先端研）、向川均（京大防災研）、中澤哲夫（S2S 国際調整事務局）、榎本剛（京大防災研/JAMSTEC アプリケーションラボ）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の条件を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを

認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める（大会予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。
2. ただし、スペシャル・セッションに関しては

各世話人の判断にゆだねる。
なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表

を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

Ⅶ. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2015a@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。なお、会場によっては利用料負担をお願いする

場合があります。

申込期限：2015年7月7日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

Ⅷ. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の斡旋を予定しております。詳細につきましては大会ウ

ェブサイトに掲載する予定です。

Ⅸ. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

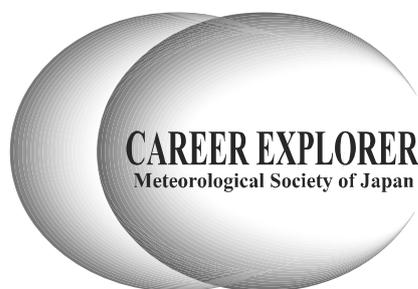
1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われま



す。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論をご遠慮ください。

3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利

益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。

4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

X. リクルートブースの設置について

大会会場にてリクルートブースを設置する予定です。なお、参加企業名は大会プログラムとともに発

表の予定です。

XI. その他

秋季大会開催期間は観光シーズンにあたります。宿泊の予約は早めにお済ませください。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

- 1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

- 2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、申し込みに先立ち、大会告示で指定された方法で、個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行なうこと。
- 2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。
- 2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

- 3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

- 4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

- 5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投稿、外来研究者による投稿など、発表者による投

稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。

- 5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

- 6.1 委員会は、査読審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。

- (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
- (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
- (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
- (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、
- (5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、
- (6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

- 6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

- 6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

- 6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

- 7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、

委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目、大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には、大会参加料は返却しない。